

新潟の新公共交通をつくる市民の会 活動報告書

2010年10月16日 土曜日

定例総会及び新交通システムの紹介

● 行事結果概要

会場：新潟市中央図書館（ほんぽーと）多目的ホール

参加者数：63名（非会員含む）

行事活動内容：定時総会

講演（新公共交通システム紹介）

- 1・トランスロール 三井物産株式会社
- 2・小型モノレール 株式会社日立製作所

● 内容

■ 定時総会

以下の通り、粛々と進められた。

村尾副会長の開会挨拶（なお、この場において、会長・事務局長欠席報告も行われた）

吉田信博新潟市技監による来賓挨拶

本間副会長が議長に選任され、総会が開始される。

事務局の小島・渡辺により、

21年度事業報告

決算報告

監査報告

22年度事業計画

収支予算

が、説明された。

結果、満場一致により、すべて可決された。

■ 新交通システムの紹介

今回の総会のアトラクションとして、新交通システム2種類の紹介を行った。

三井物産株式会社様のトランスロールと株式会社日立製作所様の小型モノレールである

1) トランスロール 三井物産株式会社 様

まずはトランスロールのモード全般の紹介から始まった。

特徴（ゴムタイヤで案内軌道によって方向が決まるなど）・実績（欧州中心だが、中国でも2例（後述）あることなど）・日本国内での取り組み（大阪府堺市での実験や安全性評価など）が紹介された。

このあと、導入空間の一例や、新潟市にとって非常に重要となる雪道での走行風景の写真を見る事ができた。非常に有意義であったように思われる。

次に中国での導入事例として、上海ハイテクパークでの取り組み紹介があった。

大規模人口を持つ上海における、局地的地域公共交通の旗手としてトランスロールが活躍していることで、

日本国内でも導入できれば・・・という思いを持った参加者も多かったことと思われる。

次に架線レスLRTの可能性についても言及された。

電池技術・搭載について、まだ技術的に課題が多く残される旨をお話された。

最後に新潟市に関する提案があり、参加者は食い入るように見つめていたのが印象的であった。提案の中には、北区競馬場・豊栄方面、江南区横越・阿賀野市方面、南区8号線・白根方面といった広域での話もあり、反応も上々であった。



2) 小型モノレール 株式会社日立製作所 様

トランスロール同様、特徴から始まった。やはり高架を売りにしているようで、この結果を見て目を輝かせている参加者もいた。

そのあとは車両のラインナップ、導入実績と続き、参加者は先進地域の状況に注目されている方も多かったのではないだろうか。特に海外にも多くが出ていることもあって、モノレールへの信頼感はこの紹介によって一段と大きくなったものと思われる。

そして、導入効果の紹介へと入った。北九州を参考にして、バスしかなかったこの地域でモノレールが走ることへの意義があった旨のお話があった。

こちらも最後に新潟への提案として、路線案と導入経費案が紹介された。

路線として、市内環状、空港・東港方面、新津方面、白根方面が提案された。

建設費試算としては、新潟駅～佐渡汽船を1期、佐渡汽船～新潟空港を2期として、算出された概算が公開され、kmあたり建設費の安さに驚く参加者も多かった。



質疑・応答があり、最後に三崎副会長による閉会挨拶で幕を閉じた。